

ロゲインがいよいよブレイクする。耐久スコアオリエンテーリングとも言えるナビゲーションスポーツの魅力はどこにあるのか。

成功した2008年シリーズ戦

日本内で散発的に行われていたロゲインをシリーズ戦にして、イベント同士が紹介しあう、さらにポイント制にして多数参加を促すというところから発案された2008年シリーズ戦。この原稿が世にでる時期もまだ奥武蔵ロゲインを残しているが、エントリーの出足は順調のようだ。ロゲインシリーズの初年度はまず成功したといえる。

アドベンチャースポーツマガジン2009年春号(山と溪谷社)にも特集としてロゲインが取り上げられる。ますますロゲインの知名度は高まるだろう。



短時間のロゲインは、トレイルランニング+ナビゲーションと考えるか、大規模スコアオリエンテーリングと考えるか。

オリエンテーリングの原点回帰

これまでロゲインといえば年間では

菅平高原の1回しか開催されなかった時期もあったが、ここ1年あたりでポツリポツリと出てきたロゲインをシリーズ戦として有機的に結合したのがロゲインシリーズ2008だ。その多くはオリエンテーリング愛好家による運営であり、競技時間も3時間から6時間という耐久レースとしては短いレースが殆どだ。

この現象はオリエンテーリングの原点回帰だと、私は分析している。

ロゲイン競技を行って感じるのは、短時間のロゲイン競技こそ30年前のオリエンテーリングだということ。

1970年台のオリエンテーリングには通行可能度のない地図が主流。行政地図に小径だけを追加調査した地図で行われるイベントが殆どだった。森の中は地図に詳細に描かれていないため、今から見れば簡単なコース設定で競技会が開催されていた。

その後、ナビゲーション熱の高まりとともに地図は格段に進歩する。それとともにオリエンテーリング競技会で課せられる技術も高度化してゆく。こうして行き着いたのが現在のオリエンテーリングである。だが現在のオリエンテーリング競技会ではナビゲーションスキルの低いものは競い合う舞台に立つことができない。それゆえ新規参入者の意欲が削がれているという課題がある。

ロゲインは初心者にも楽しい

ナビゲーションを追求するオリエンテーリングとロゲインは少し趣を変える。ロゲインで求めるものは体を動かすことの楽しさ、その結果として得られる素晴らしい体験である。それは景色のよさであったり達成感であったり。

これに加えてナビゲーションスキルが必要になるが、これはオリエンテーリングに比べてあまり求められない。

こうした参入障壁の低さと、手軽に手に入る素晴らしい体験がロゲインには準備されている。

オリエンテーリングが戦術的ナビゲーションを問うのに対して、ロゲインは戦略的ナビゲーションが問われる。参加者の体力やランニング技術に見合ったコース取り、全体の体力配分、補給作戦などオリエンテーリングとは違

う戦い方が必要となる。



スタート前の作戦タイム。これから家族で見る素晴らしい景色は宝物になるだろう。

定点・定期開催が可能

一方、主催側にとってもロゲインの魅力は大きい。その最たるものが定点開催が受け入れられている点である。

ランニングと同じように毎年同じ時期に、同じ場所で開催しても参加者に受け入れてもらえるというところだ。コントロール位置と配点を変えることによって何回でも楽しめるコースを作ることができるのだ。

毎回違うトレイルを模索しようとしているオリエンテーリングイベントより地元との関係も築きやすい。

主催者側から見た魅力のひとつに、地図作成の負担が少ないことがある。基本的に小径を外れることが少ない日本のロゲイン競技では、地図調査は小径の調査である。GPSを使えば小径調査は驚くべきスピードで進む。

木村の例でいうと、霧ヶ峰の地図調査では一日で30kmの小径の調査を終えたことがある。同じ面積の高精度O-mapに比べその手間は1/10以下だろう。

2009年ロゲインがブレイク

主催側、参加側の参入の低さゆえにロゲイン注目を集めている。2008年では年間6イベント程度であったのに対し、2009年度は年間12イベント程度が企画されている

これからロゲインシリーズの情報が皆さんの目にとまるだろう。一度参加してみればその魅力を感じることができるだろう。

(木村佳司)